

檀原教室応用科(研修科)の開催について

令和2年9月6日
講座総括担当(鎌田)

前回(8月28日)の講師会の結果を受けて受講生確定作業において私の行動は若干猪突であり、皆さんにご不快な思いをさせてしまい改めてお詫びします。令和2年度開催の檀原教室について忌憚のない意見交換をして頂き、最終判断をお願いします。いつもの通り議事のたたき台として取りまとめました。

1. 経過

令和2年度の受講生確定で一番問題なのは檀原教室応用科であり、応募者が講座開催に必要な人数(事業運営上は望ましい人数は10名以上)が集まるか否かです。29日現在の応募者は4名であり非常に懸念される状況でした。

前回の講師会で藤崎さんが「(前文略)人数が少ないのであれば、応用科修了者の中から数名に再受講のお願いをしてはどうでしょうか。」のご意見に対して意見交換が十分でなく、結論が漏れていたのが今回の問題の背景ではないでしょうか。事業運営から考えると基礎科修了生だけの開催は懸念されるどころであり、より具体的開催方法を議論すべきであったかと思います。

先日の三者会談で中垣さんが話されていましたが、「受講料の徴収は、講座内容を確定して受講者が理解をして頂いて初めて受領できる」と言われていますが、その通りです。応用科修了生で相談サロンを申し込まれていたのが10名でしたが、藤崎さんのご意見を実現するためには、相談サロンの開始連絡を行う日(9月2日開催の2~3日前)までに応用科修了生に応用科再受講を依頼する必要があります。解決するまでの時間があまりにも少なかったです。

今年度は、相談サロンには40名前後の応募者があり、講座運営を考えた時何らかの対応が必要であり、香芝教室応用科修了生5名の方には早々に香芝教室応用科の再受講で了解を得ていたのですが、29日現在まだ30数名の応募者があったところであり、次の対策を考える必要がありました。そこで、檀原教室応用科修了生で相談サロンを応募されている方に檀原教室研修科の開催案内をお送りしたところです。お送る前に関係の横尾さんと藤崎さんに相談すべきですが、講座開始の案内を行うまでに全く時間がなく、講座総括担当の責任において進めさせていただきました。いつもは熟考し反芻してメールを送っていますが、今回は急いでいたために反芻することなく(追伸)(追伸)まで送りました。9月1日までに9名から研修科受講の承諾を得ています。

また、檀原教室基礎科修了生を一人一人修了後の対応を考えると最大見積もっても応用科に進まれる方は10名に満たないと状況であり、事業運営から最善の策と考えて、応用科も研修科も相談サロンも講座はみな同じですから、応用科を受講希望されている受講生4名に研修科開催の案内を送り、研修科受講の承諾を得ています。

そして、その後の応用科受講希望生にも同様に対応しましたが、2名からは研修科受託を得ましたが、残念ながら他の方からは返信がないところです。

基礎科修了生および研修科修了生とのメール更新状況については、次項で説明します。

2. 9月5日現在の応募状況

(1) 基礎科修了生(応用科受講生 ⇒ 研修科受講)

- ① 引地康子 辞退 年賀講座終了後連絡なし(藤崎さん情報)
- ② 小川孝子 参加 研修科についてメールを送る ⇒ 研修科受講承諾(8月80日)
- ③ 小田洋子 参加 研修科についてメールを送る ⇒ 研修科受講承諾(9月1日)
- ④ 駒方直美 参加 研修科についてメールを送る ⇒ 研修科受講承諾(8月31日)
- ⑤ 塩見晴彦 応用科申し込み ⇒ 研修科についてメール再度メールを送る(31日)
⇒ 返信なし
- ⑥ 島田一美 参加 "研修科についてメールを送る ⇒ 研修科受講承諾(8月31日)
- ⑦ 田中紀美代 参加"研修科連絡すると辞退(榎原教室3期生) ⇒ 相談サロンを紹介(31日)
⇒ 体力なく辞退(31日)"
- ⑧ 中野文子 参加応用科申し込み ⇒ 研修科についてメール再度メールを送る(9月 3日)
⇒ 文字化けの関係で横尾さんに電話で研修科受講について連絡あり(9月3日)
- ⑨ 藤田雅子 参加 研修科についてメールを送る ⇒ 研修科受講承諾(8月30日)
- ⑩ 松原真須美 仕事の関係でオンライン講座も応用科も辞退
- ⑪ 森澤実千子 参加 9月4日に応用科の申込あり、研修科についてメールを送る ⇒ 返信なし
- ⑫ 森本 ナヲミ 参加 応用科申し込み ⇒ 研修科についてメールを送る(9月 3日) ⇒ 辞退
のメールを受信 ⇒ 講師会の状況を連絡 ⇒ 返信なし
- ⑬ 吉岡美津子 参加 応用科申し込み ⇒ 研修科についてメール再度メールを送る(9月3日)
⇒ 返信なし

(2) 応用科を修了生(研修科受講生)

- ① 磯田光子 相談サロン参加申し込み ⇒ 榎原教室研修科受講(8月29日)
- ② 大下千賀子 相談サロン参加申し込み ⇒ 榎原教室研修科受講(9月1日)
- ③ 加藤昌子 相談サロン参加申し込み ⇒ 榎原教室研修科受講(8月29日)
- ④ 北村嘉津代 相談サロン参加申し込み ⇒ 榎原教室研修科受講(8月30日)
- ⑤ 小山まゆみ
- ⑥ 佐藤純子 相談サロン参加申し込み ⇒ 再考願うも相談サロン希望(介護の関係) ⇒
相談サロンに参加
- ⑦ 志野佐知子
- ⑧ 柴田恵美子 相談サロン不参加の連絡あり
- ⑨ 清水瑞恵 相談サロン参加申し込み ⇒ 榎原教室研修科受講(8月30日)
- ⑩ 田中美津子 相談サロン参加申し込み ⇒ 榎原教室研修科受講(9月1日)
- ⑪ 中西健治 相談サロン参加申し込み ⇒ オンライン講座未受講で環境の整備が必要 ⇒
環境整備を促すマイペースであり辞退を要請 ⇒ 辞退のメールを受信する(9月1日)
- ⑫ 原口豊秋 相談サロン不参加の連絡あり
- ⑬ 平井千恵子 研修科受講申し込み(8月30日)
- ⑭ 松村澄枝 相談サロン不参加の連絡あり
- ⑮ 三浦 宏恵

- ⑯ 森岡 俊二郎
- ⑰ 森山 悦宏 はがきで辞退の連絡あり(9月1日)
- ⑱ 吉田 彰友 相談サロン参加申し込み ⇒ 檀原教室研修科受講(8月30日)
- ⑲ 吉田 多佳子 相談サロン参加申し込み ⇒ 檀原教室研修科受講(8月30日)
- ⑳ 鎌田恵子 檀原教室4期生で9月2日相談サロンの申込があり研修科受講を説明して了解 ⇒ 医大受診で十二指腸腫瘍が見つかったため辞退

(3) 宇陀教室応用科

基礎科修了生の15名中13名の方から応用科受講の連絡を受けています。

後の2名の上田さんは介護福祉士の資格取得のため、楠田さんは基礎科再々受講生であり今回でもって全ての講座について辞退されました。

(4) 宇陀教室研修科

応用科修了生の16名中14名の方から研修科受講の連絡を受けています。

残りの山口さんと芳岡さんからは応用科終了後に対する返信がありません。

応用科修了生以外に、馬場さん(宇陀教室7期生)と賀来さんが参加をされ、16名で開催します。

(5) 香芝教室基礎科

基礎科応募者10名に対して2回オンライン講座を体験して頂き、全員受講されるものとはばかり思っていました。なぜか1名から辞退の電話が川本さんにもあり二人とも強く受講を進めたのですが、辞退の意思が強く残念な結果に終わりました。

基礎科再受講生2名(神野さんと倉井さん)とともに、明日、香芝市中央公民館で11名から受講料を受領して、日程表のとおり9月14日から講座が開始します。

(6) 香芝教室応用科

基礎科修了生13名、応用科修了生5名、2日に相談サロンを申し込まれてきた香芝教室4期生(友枝さん)を含めて19名の参加を得て、明日講座開始します。友枝さんとは環境整備を終えて、これまで3日間 ZOOM の操作練習をして頂き受講に備えています。

(7) 相談サロン

今年の相談サロンは約40数名と多くの応募を頂きましたが、9月2日に26名で講座を開始しました。

3. 対策検討

すでに、横尾さんから3役の検討結果が連絡されているところですが、少し問題等を掘り下げて対策案を提案します。また、是非皆さんからのご提案をお願いしたいところです。

(1) 応用科の名のもとに開催する

- ① 基本日程は、第2・第4水曜日の午後
- ② 現在、研修科応募者は15名であり、日程変更について9月9日午前中には承得を得る必要があります。
- ③ 先日の3役の話し合いでは、3蜜を考えた時、9月9日朝に合同での説明会は難しいと考えています。

④ また、「本会の信頼感に疑問を持たれないか」との意見がありました。

(2) 研修科の名のもとに開催する

- ① 基本日程は、第1・第3水曜日の午前
- ② 現在、研修科に受講に関して返信がない塩見さんと吉岡さんと森澤さんに9月9日の朝に説明をして承諾を得る必要があります。

(3) 応用科および研修科に分けて開催する

- ① 3役会議では見送られた案ですが、基礎科修了生の対応状況を勘案し、これまでの事業運営方針からは大きく外れますが、また、この先何があるか分かりませんが、採算を度外視して、受講生を応用科と研修科分けて開催します。また、合同開催では受講生のレベルに差があるため若干講座維持に問題があり、分けて開催した方がベターかと思います。
- ② これまでの受講生対応から見ると、受講生にとって日程変更はあまり大きな問題ではなく、アレルギーは少ないかと思います。日程変更が大変であれば、15名から研修科受講の承諾は得られなかったところであり、日程変更は心配するほどの問題ではないと私は思います。そこで基礎科修了生に連絡をして、本来の「檀原教室応用科」で開催します。
- ③ 9日の朝にテキストの配布とインストールそして受講料の徴収を行い、午後1時から第1回のオンライン講座を開催します。
- ④ 第2回以降は、日程表通り開催します。
- ⑤ 応用科開催に対して、すでに来年3月まで会場の予約が出来ており、対面講座開催については問題がないところです。
- ⑥ 研修科開催については、9日の朝にテキストの配布とインストールそして受講料の徴収を行い、午後3時から第1回のオンライン講座を開催します。
- ⑦ 2回目以降、相談サロン開催日の朝に、相談サロンと同じ講座を開催します。
- ⑧ 講座は始まっていますが、相談サロンの参加者の内、檀原教室修了生にお話をして、数名の方に研修科を受講して頂ければ、相談サロンの講座運営も少しは楽になるかと思います。
- ⑨ コロナ禍が収束して対面講座となった場合、研修科については教室の予約が必要です。

4. その他

(1) 検討に当たって

最終案の検討においては、①受講生にとって、②講座運営にとって、③ご自身の活動にとって、④事業運営にとって、の最善の策を検討して頂きたいと思います。特に受講生については、特定の受講生について注視するのではなく、全ての受講生から見ての判断をして頂きたいと所です。

応用科、研修科、相談サロンともに講座内容は同じですが、参加される受講生および講師により自ずとその講座運営、講座レベルは異なります。檀原教室の開催においては、受講生について十分に分析・評価をして、対策案を検討して頂きたいを思います。

また、特に皆さんは、講師であるとともに理事であり、事業運営からのご検討もお願いします。

(2) 9月9日の朝の対応について

対策案がいずれに決まっても、講座開始に向けて今日中には受講生の案内を出す必要がありますから、9日朝の詳細な手順等の整理をお願いします。

(3) 「受講生第一」について

常々、「受講生第一」と話していますが、時と場合と受講生によるのではないのでしょうか。

山下さんから頂いたメールの中に、基礎科中止の判断の後に応募者の中で少しパソコンの経験のある方に研修科の受講を進められたお話がありましたが、私は応募された受講生からも事業運営からも当然勧誘をされるべきかと思います。香芝教室の基礎科の再開についても同じですが、宇陀教室に戻して話せば、その後対応した賀来さんはパソコンおよびプリンターを購入してのジュ逢瀬あり問題がないところです。また、もう一人の男性と対応をしましたが、マイペースで約束が守らない方であり、数度の対応の結果、私からご辞退をお願いしたところです。

檀原教室基礎科は、この1年半の様々なことがありました。今回の受講生の取りまとめにおいても、宇陀教室、香芝教室は大半の方からはすぐに返信がありました。檀原教室はすぐに返信があったのはわずか4名です。やはり日頃の受講生とのメール交換に問題があるのでしょう。

いつも「受講生第一」と言いながらも受講生一人一人について、受講生を尊重しながらも講座運営及び事業運営からの判断も加えて対応する必要があると思います。

(4) 「六樹会の会員」とは

岡田さんのメールの中で「私たち、六樹会の会員は、小さなコマです。」とのコメントがありました。この様に思われているとは全く想像していませんでした。

確かに、私は発足当時から事務局長としてまた講座運営担当として先頭を歩かせて頂いていますが、常々、「身障者の私がこのような活動が出来るのは皆さんの協力があって初めて出来る」とお話しているところです。そして、出来限り講師会および理事会を開催して皆さんのご意見をお伺いして進めている所ですが……。残念です。

(5) 「六樹会パソコンサロンのあるべき姿」とは

また、藤崎さんのメールの中で「NPO法人である「六樹会パソコンサロン」のあるべき姿とはかけ離れてきている現状を前に大変辛く悲しい思いです。」とありますが、あるべき姿とはどのような姿でしょうか。今回はよい機会ですから、皆さんのご意見をお聞きしたいところです。

今回の判断は、事務局長および講座総括担当を担当している私からは、当然事業運営および講座運営からの判断が優先された結果で、皆さんとの判断と大きくかけ離れてしまい、皆さんから様々にご意見を頂くとともにご不快な思いをさせていただきました。

母親を認知症で亡くなりましたが、最近言葉が出ない状況であり、先日の宇陀教室においては山下さんのサポートを受けた状況です。発足以来先頭を歩ませているところですが、皆さんのお考えが大きく違っている現状からは事務局長および講座総括担当の席を離れるべきかと思います。

適任者を選んで頂き、バトンタッチをさせて頂き、私は、受講生にサポートに専念したと思いますから、よろしく願います。(正直言って、今回は精神的にも肉体的の少し疲れしました。)

長々と書きましたが、この後はいつもの通り横尾さんにバトンを渡し、藤崎さんの思いを実現するためには第3案と思いますが、横尾さん中心に檀原教室のあるべき講座運営についてとりまとめて頂ければ幸いです。よろしく願います。